



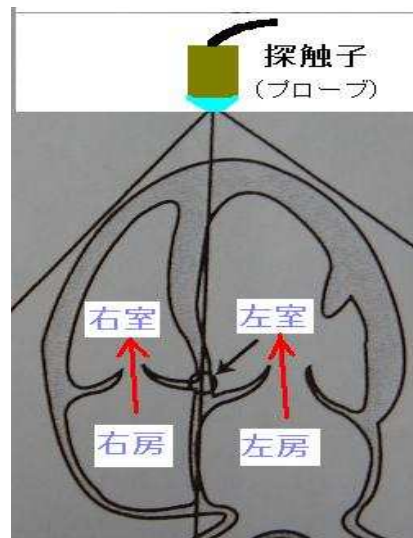
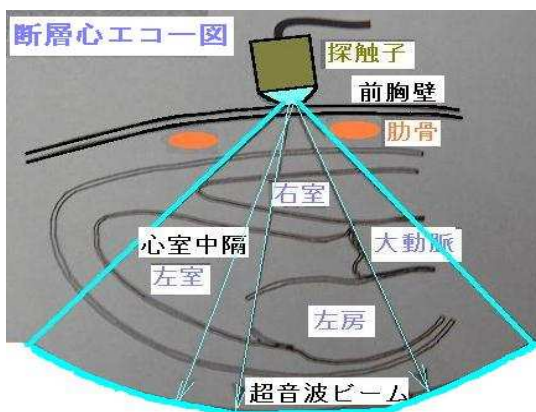
検査科のつぶやき、第10回！！今回は**心エコー検査**のお話です。

■心エコー検査で何がわかるの？

心臓の大まかな動きや弁の様子、壁の厚さなどがわかります。
もし心筋梗塞であれば、心臓の壁の動きが悪くなっているので、どこが動いていないのかが見ることが出来ます。
また、血液の流れる速度や方向など血流の状態も画像化することができます。
血流の状態をみることで、弁の異常や心房隔欠損症などのように生まれつき壁に穴があいているような病気も発見できます。

■心エコー検査はどんな検査？

胸部を露出してベッドに仰向けになって寝ている状態で、プローブと呼ばれる超音波発信機を肋骨の隙間に沿うようにあてて行ないます。
プローブと皮膚の間には隙間が開かないように、ゼリーを塗ってピッタリと密着させます。
同時に心電図もとりますので、背中に電極をとりつけます。
検査にかかる時間は20分～30分程です。



■どんな時に心エコー検査を行うの？

- 1.心電図異常
- 2.心雑音がある場合
- 3.胸部X線異常
- 4.胸痛・動機・手足のむくみ・息苦しいなどの自覚症状のある場合
- 5.血液疾患の治療前
- 6.心筋梗塞や弁の異常などの経過観察

心エコー検査は、超音波を心臓部に発信しその反射波をモニター画面に映し出して心臓の形態や状態、機能などを調べます。X線と違って被爆の心配がないので繰り返し行なう事が出来、苦痛も伴いません。

検査ご希望の方はお気軽に外来受診時にお申し出ください！
検査科

